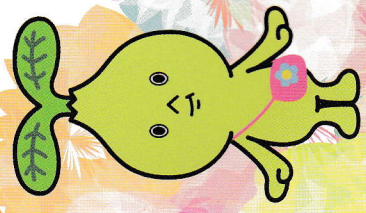


はたち 20 冊



ご成人おめでとうございます。
新しい一歩を踏み出すあなたに、
1冊の本を贈ります。



飯館村公民センター
イイネちゃん

飯館村教育委員会
協力 一般財団法人 出版文化産業振興財団 (JPIC)

大友良英

(おおも・よしひで)

音楽家、ギタリスト、ターンテーブル奏者。1959年生まれ。小・中・高を福島市で過ごす。映画やテレビの音楽を山のように作りつつ、ノイズや即興の現場がホームの音楽家。活動は日本のみならず欧米、アジアと多方面にわたる。美術と音楽の中間領域のような展示作品や一般参加のプロジェクトやプロデュースワークも多数。震災後は故郷の福島でプロジェクトFUKUSHIMAを立ち上げ、現在に至るまで様々な活動を継続中。2013年「あまちゃん」の音楽でレコード大賞作曲賞を受賞。2014年よりアンサンブルズ・アジアのディレクターとしてアジア各国の音楽家のネットワークづくりに奔走。2019年福島を代表する夏祭り「わらじまつり」改革のディレクターも務めた。



『ことばと国家』

田中克彦 著
岩波書店/岩波新書 858円



言語学者 田中克彦先生の代表作です。40年前の本で少々難しいところもありますが、普段なにげなく使っている「ことば」を入りに、自分たちが当たり前だと思っている様々なものが、実はそうでもないってことや、ものの考え方の基本になるような大切なことが丁寧に書かれています。わたしにとっては人生が変わるくらいの本で、今でも自分の考え方の基礎になっている本なんです。

20歳 20冊
大友良英

『ねぼけ人生』

水木しげる 著
筑摩書房/ちくま文庫 638円

「ゲゲゲの鬼太郎」の生みの親、漫画家水木しげるの自伝本です。淡々と書かれています。戦争体験も貧乏体験も漫画家としての人生も全てひっくるめて、ちょっと面白いものすごい自伝本です。なのに、まったく偉そうじゃなく、のほほんとしたところもまた最高の本です。しんどいときにこの本を読むと、人生なんとかなるかと思える本でもあります。

20歳 20冊
大友良英

『見えないものに、耳をすます』

—音楽と医療の対話—

大友良英・稲葉俊郎 共著
アノニマ・スタジオ 1,760円

常に生死と向き合っている医師の稲葉先生との対談本です。話題は音楽や文化の話だけでなく、生命や自然へと多岐に渡りますが、両者がそうしたことをより深く考えるようになった大きなきっかけが震災での被災地の経験で、そのことも書かれています。わたしたちには見えないものが沢山あって、でも耳をすますことから見えてくることもきっとあると思います。焦らずに人生歩みましょう。

20歳 20冊
大友良英

